

編集部のまとめ

コロナ禍で問われる宗教の本質

インタビューを通して見えてきたものがある。それは一言でいえば、「伝統的宗教の本来的価値の見直し」である。これまで長年にわたってひとところにあつまって祈りをささげてきた宗教が、コロナ禍によって集まることができないとの危機に直面し、本来持っている価値を見直す必要に迫られたのである。それは、キリスト教、神道、仏教などの宗教の違いを超えて同様に突き詰められている問いであると感じた。

同時に、宗教の違いを超えて、「宗教の本来的価値の見直し」に真摯に向き合う姿勢にも共通点が見られた。オンラインなどの新しい動きを取り入れつつも、神の前に集まって祈るという本質をどのように保ち続けるのか、新しい価値をどこに見出すのか、それぞれにまだはっきりとした答えが見えているわけではない。

しかし、人びとの中に人間が本質的にもっている、共に集い、共に話し、共に会食し、共に遊び、共に祈ることは失われておらず、その価値を見直し、新しい生活様式の中で再構築しようとの動きがある。そこに応えてゆくことができれば、宗教は人びとの心のよりどころに再びなるのではないだろうか。

コロナ禍はいつまで続くのかわからないが、見えてきた本質的な問いに向き合いつつ、本来的な価値を見直すことができれば、前田大司教が言うように「ピンチをチャンスに」変えることができるだろう。

取材協力

諸宗教対話委員会委員長ロッコ・ビビアーノ神父様、ご協力ありがとうございました。

ナ対策も事務所から方針は出されるが、判断は各お寺に任されている。

仏教の場合、法事がある。昔は、集まる人数も多く寺に来ていただいていたが、最近では2、3人が多いので、家に訪問する機会が増えていた。ただ、コロナ禍では家だと密になりやすいので、できるだけスペースがあるお寺の本堂で行うようにと、声をかけた。お寺でするのは仰々しいという声もあったが、お寺でする檀家も増え、檀家が寺に来る機会が増えた。

関西の場合、月参り（命日の法要）という習慣がある。僧侶が定期的に檀家を回る取り組みである。コロナ禍の中で訪問が減るかと思ったが減らなかった。そういうことを見直さなければという声も聞いている。他のお寺さんも言っていたことだが、緊急事態宣言が発出され、月参りを中止される家庭が多いかと思ったが、「こんな時期でも来てくれるのですか」という声が続くようであった。

どこかで、人と人のつながりを求めているのではないだろうか。

一方では、寺同士の結びつきが弱くなるのではないかと懸念を抱いている。「組」と呼ぶ寺の集まりがある。大阪の場合、智源寺の近くでは天満の寺町というのがある。もともと横のつながりが強かった。浄土宗だけの集まりが「組」である。天満組は天満から福島区、港区、此花区、そのあたりを網羅している。コロナ前には、浄土宗全体の行事、大阪や近畿レベルでの行事の打ち合わせを行い、組によっては、月に一回くらいのペースで、勉強会や婦人会の集まりがあった。コロナ禍で組の活動がしにくくなり、会議もウェブで行うことが多くなった結果、寺同士の関係が疎遠になったように感じる。

それ以外に大阪市、大阪府レベルの仏教会という各宗派が集まっている会もあるが、やはりZoomなどでの会議が増えている。

コロナ禍が長引く中で、ストレスがたまり、疲れている人が多いと感じる。ワークシンの接種が進めば変わるのかなと思うが。

これからどうなるかわからないが、宗教離れが進んでいる時代の中で、仏教の場合、「とも生き」と呼ばれる地域での助け合い――村社会が近代化の中で失われてきた先祖を大切にする文化の中で、自分の生きがいを見つけてきたのであるが、そのよいところを取り戻せる時代が来ているように感じる。

人と会わないと始まらないのが宗教。現在はAI（人工知能）やインターネットで、できるだけ人間に会わないような世界がつけられているが、それでは絶対にできないところを宗教者はやっていかなければならない。



智源寺入口

なかなか難しい問題であるが、仏教においてはなかなか機能していなかった、心を支えるということ、そういうことに目を向ける時代が来ていると思う。

日本の仏教は受け身で、布教のようなことはしてこなかった。今、浄土宗だけでいうと、コロナ禍の中で、昔に比べて外に出ようという動きが出つつある。危機感を持った動きがみられ、新しい風が吹き始めている。コロナ禍の中で変わらなければならない意識が芽生えている。

2021 年春 小教区・ブロック司牧担当者一覧

(6月8日現在)

姫路地区	姫路西 B	Fr. 大久保 武は担当 Fr. アンドレ・コレーンはブロック協力
	姫路中 B	Fr. ガッラ・ウィフリデウスは主任〈姫路・佐用〉 Fr. ルドビカス・ゴーセンスは主任〈仁豊野・生野分教会〉 Fr. ガッラ・ウィフリデウスは小教区管理者〈豊岡〉 Fr. 赤磐富夫は協力
	姫路東 B	Fr. アルマンド・ロメロは主任〈加古川〉
		Fr. プインガ・ブレイズ、Fr. レネ・バント・カンデラリアは地区協力
神戸地区	神戸西 B	Fr. 高橋 聡、Fr. 林 和則、Fr. ジェラルド・グイノは共同 Fr. 中川 明は協力
	神戸中 B	Fr. グエン・クオク・トゥアン〈担当：鈴蘭台〉、Fr. 松永 敦〈担当：兵庫・たかとり〉は共同 Fr. 神田 裕〈担当：三田〉は協力
	神戸東 B	Fr. コンスタンシオ・コンスルタ、Fr. エマニュエル・ポポンは共同〈神戸中央・住吉〉 Fr. ミシエル・コーナン、Fr. 赤波江 豊は協力〈神戸中央・住吉〉 Fr. アルフレド・セゴビアは主任 Fr. 中村健三は助任 Fr. 増井 啓は協力〈六甲〉
		Fr. イスリオン
阪神地区	阪神夙川 B	Fr. 梅原 彰、Fr. 李昇倫は共同〈夙川〉 Fr. 川邨裕明は主任〈芦屋・甲子園〉
	阪神仁川 B	Fr. グエン・シン・サックは主任〈宝塚〉 Fr. 和越 敏は主任〈仁川〉 Fr. ヒラン・インディカ・ジャヤワルデナは主任〈伊丹〉
	阪神尼崎 B	Fr. ワユディ・デンニは主任〈武庫之荘〉 Fr. 山口武史は主任〈園田〉 Fr. ジョヴァンニ・デリアは主任〈尼崎〉
北摂地区	北摂西 B	Fr. 中村克徳は主任〈日生中央〉 Fr. ナザリオ・プラザは主任〈池田〉 Fr. 野田正弘は主任〈豊中〉 Fr. 矢野吉久は主任〈箕面〉
	北摂東 B	Fr. 清川泰司は主任〈高槻・茨木〉 Sr. 橋本とも子〈高槻〉、Sr. 深瀬聖子〈茨木〉は協力 Fr. 香山 剛は主任〈千里 NT〉 Fr. 井田 明は主任 Fr. 横田志郎と Fr. マルセル・フォールテンは協力〈吹田〉

大阪北地区	梅田 B	Fr. カルロス・ムニジャ、Fr. エリック・バウチスタ・デ・グスマンは共同 Fr. 赤波江謙一、Sr. 吉住映利子は協力
	しろきた B	Fr. ハイメ・シスネロス、Fr. 竹延真治、Fr. グエン・バン・ナンは共同
	河北 B	Fr. 昌川信雄は主任〈香里〉 Sr. 高橋由美子は協力〈香里・門真〉 Fr. 長崎 壮は主任 Fr. フリオ・トーレス、Fr. 梅崎隆一は協力〈枚方〉
		Fr. 山本英明は主任〈阿倍野〉 Fr. 酒井 淳は主任〈平野・大阪田辺〉 Fr. 中野正勝は協力〈平野〉 Fr. チョン・ディン・ハイは主任〈藤井寺〉
大阪南地区	堺 B	Fr. 高 畠政行、Fr. 春名昌哉、Fr. ジャンマリー・カゼンガは共同 Sr. ファム・ティ・テウイ・キョウは協力
	かわち B	Fr. 上田 憲は主任 Fr. 明石健次は協力 Fr. 安旻祐は居住〈日本語研修〉
	みなと B	Fr. 松浦 謙は主任 Sr. 戸村晴美は協力〈住之江・なみはや〉
	玉造 B	Fr. ヌノ・リマは主任〈玉造〉 Sr. 梶野芳子は協力〈玉造〉 Fr. セサル・ボルメントは居住〈日本語研修〉〈玉造〉 Fr. 中谷 功は主任〈生野〉
岸和田地区	紀泉 B	Fr. イポリト・ヴィタは主任
	いずみ B	Fr. 村田 稔、Fr. ロムアルドゥス・ジュアンは共同 Fr. フラビオ・ベスコは協力〈いずみ B〉
	りんくう B	Fr. ピエル・ジョルジョ・マンニは主任〈泉佐野〉 Fr. マルコ・ヴィゴロは主任〈貝塚〉 Fr. マルコ・ヴィゴロは小教区管理者〈熊取〉 Fr. クラウディオ・コデノッティは協力
和歌山地区	紀北 B	Fr. パウロ・セコは主任〈和歌山紀北〉
	紀南 B	Fr. 石井 望は主任〈紀伊田辺・御坊・龍神〉 Fr. ヨゼフ・プロデリックは主任〈新宮・串本〉
その他		Fr. パウロ・スックは大司教秘書および教区協力 Fr. 金台根は日本語研修〈司教館〉 教区外：Fr. ブラッドリ・ロザイロ、Fr. レクダク・ゲラルドゥス 静 養：Fr. 留永久照

※ B はブロックの略。地区長、事務局・委員会等の任期は 2020 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日